東海支部報

日本山岳会東海支部

No. 140　Jan.　1.　2015

発行　公益社団法人
日本山岳会東海支部
〒460-0014 名古屋市中区富士見町8-8 OMCﾋﾞﾙ
電話：052-332-8363　FAX：052-322-7924
郵便口座 00800-5-13749「日本山岳会東海支部」
銀行口座 三菱東京UFJ銀行 覚王山支店
普通1222073「日本山岳会東海支部」
編集　星　一男
印刷　㈱ 浅井隆文社

第6回　森の音楽祭

目　次

○年頭のご挨拶　小川　務　1

○全国ボランティア登山情報交換会　前田隆久　2

○親と子のふれあい登山教室　前田隆久　3

○日本山岳会110周年記念出版
「インド・ヒマラヤ」　沖　允人　4

○関西・京滋・東海3支部合同
森の勉強会　大塚治子　5

○ゴザフェス2014　梶浦昌巳　7

○第6回森の音楽祭2014　毛利邦男　8

○同好会コーナー　村中征也
山中光子　9

○東海支部の蔵書からの一冊③　園田さえ子　10

○支部友コーナー　酒井　広　11

○委員会報告
総務委員会　佐野忠則　12

○会務報告　毛利邦男　13

○会員異動　（ルーム日誌）　酒井　広　17

○INFORMATION

○編集後記　星　一男　18

http://www.jac-tokai.jp　E-mail room01@jac-tokai.jp　E-mail room01@muse.ocn.ne.jp

年　頭　の　ご　挨　拶

支　部　長　　小川　務

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、今年のお正月はいかがお過ごしでしょうか。

昨年8月の夏山シーズンは西日本を中心に記録的な多雨、日照不足となりました。この要因は8月上旬の台風と中旬以降の偏西風の蛇行とみられ、山行委員会の山行の7割が中止になるなど、多くの影響がありました。

9月に入り、やっと秋の好天に恵まれ夏山以上の登山者が訪れていた27日土曜日、御嶽山が突然噴火、57人が死亡し6人が現在も安否不明の大惨事が発生しました。御嶽山は信仰の山で、8月の最盛期には白装束の信者の登山が途切れることがありません。今年の剣ヶ峰頂上にある社務所は9月3日に終了して施錠され、御嶽講の登山も終了していたため、信者の被災は免れたようです。また、30数名の小学生のグループが一般コースである田ノ原コースから登り、頂上付近にいましたが、引率者である一人の先生の機転で下山コースを変更し、二ノ池小屋から9合目、8合目に下り、緊急停止直前の御嶽ロープウエイを動かして児童全員を無事下山させたとのことです。この引率者は地元開田村の出身で、正に身についた判断力のなせる結果であり、我々登山者も多いに学ぶべき事例と言えます。幸いにして、今回の噴火では東海支部関係者の入山は無く被災者も皆無でしたが、一時は遭難救助の準備を覚悟し、情報収集に努めました。

10月に入り、またまた季節外れの台風接近により、5～6日鈴鹿山脈で開催された「支部友ミーティング」の6日の山行が雨のため中止になりました。しかし、さらに天気が心配された25日の「第6回森の音楽祭」は秋晴れに恵まれ、400名を超える参加者の見守る中、75名のオーケストラによりチャイコフスキーのNo.5が演奏され、時折、鳥の声や沢の水音もまじり、聴衆の胸を打ちました。引き続き行われた森の観察も参加者の多くが体験し、盛会の内に終了することができました。

11月に入り、やっと好天に恵まれ、目白押しの事業に加え、夏の台風により実施できなかった山行が行われました。

8～9日には「全国ボランティア登山（障がい者支援登山）情報交換会」と東海・関西・京都滋賀支部共催による「第18回森の勉強会」が開催され、両企画とも8日の座学は内容のある勉強会を実施できましたが、9日は雨天で「障がい者支援登山」は少人数での山行を実施しました。

15～16日には支部員有志による「鈴鹿山脈御池川キャンプ」へ本部より野沢ユースクラブ委員長とユース会員に参加頂き、東海支部ユース会員と共に御池岳周辺での集中登山を行い、技術向上と親睦を深めました。

さて、東海支部はここ数年「会員の増強」と「若年会員の確保による組織の若返り化」さらに「自立した支部員の育成」を課題として取り組んできました。その結果、日本山岳会の32支部中、最多の会員を有する支部となることができました。しかし、最近このような「お題目は聞き飽きた。組織の若返り化のために何をどうするのかを具体的に示してほしい」との声も多く有ります。東海支部は昨年度42名の新入会員があり、本部から入会金の一部還元がありました。これらの収入を、若年会員の増強に使っていただきたいと考えています。

以上、紙面の関係で説明不足ではありますが、「会員増強」と「若返り化」に更なるご理解とご協力をいただけますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様のご活躍により、東海支部が益々発展することを祈念申し上げまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

全国ボランティア登山（障がい者支援登山）情報交換会

＝秋のブラインド登山＝

ボランティア委員会委員長　前田隆久

登山の多面性の一つとしての支援登山

〇支援登山への思い

ここ数年、ボランティア委員会秋の行事として、幼稚園児支援登山「親と子のふれあい登山教室」と、視覚障がい者支援登山「ブラインド登山」を行ってきた。ボランティア登山に関してはいろいろな見方もあるが、言える事は、私たちは慈善事業としてボランティア登山を行っている訳ではないという事である。それは多面的な登山の形態の一つに過ぎず、障がい者、幼児・・・彼らとの登山から、学ぶ事、気づく事、感動する事は多く、自分自身の登山体験を豊かにする。そんな気持ちで私たちは活動しているのである。

今年は、「ブラインド登山」を拡大して、全国ボランティア登山（障がい者支援登山）情報交換会として行うことを決め、半年以上かけて準備して臨んだ。何といっても、初めてのこと、どんな反響があるかもわからない中で手探りのスタートであった。時間も、会場も、プログラムも、規模がはっきりしないと決められない中、福祉バスの関係で、日程すら8月1日にならないと決められない状況で、まず、全国32支部と本部への働きかけ、アンケートの郵送からスタートした。さらに、各支部長、事務局長宛の告知、会報「山」を通しての告知等広報に努め、何とか開催に至った。

二つの行事を報告する。

全国ボランティア登山情報交換会は、東海支部で行ってきた障がい者支援登山を広く知っていただき、さらに同じ思いで現在活動されている他支部の方、また、これから取り組もうとされている他支部の方と情報交換を行って、今後広く普及していくことができればという思いから、視覚障がい者支援登山を中心として、それ以外の各種支援登山も視野に入れて今回初めて開催した。

11月8日（土）東海支部ルームにて、翌9日（日）三河・猿投山で計画された。

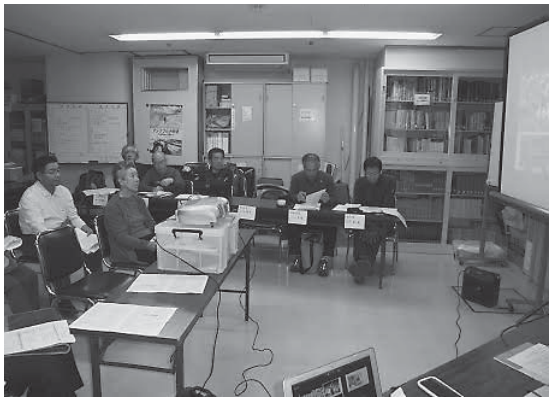
9日（日）は名古屋近郊の猿投山629mで、ブラインド登山（視覚障がい者支援登山）を行う予定だった。はじめて参加の障がい者を含め60人近く参加の予定であったが、雨のため公式登山は中止となった。せっかく来ていただいた東海支部以外の遠方からの参加者と、全盲の東海支部メンバー2人、東海支部からボランティア委員数名で車2台に分乗、晴れ間をぬってショートコースに変更して体験登山を行った。

挨拶をされる東京本部の宮崎紘一
支部事業委員会委員長

8日の情報交換会は、22名が参加して行われた。

第一部は3時から、東海支部小川務支部長が、ホスト支部の立場から挨拶、東京本部の宮崎紘一支部事業委員会委員長が、本部として支部事業の活性化に対する期待を、京都・滋賀支部の松下征文副支部長兼遭難対策委員長が、京都・滋賀支部としても考えていかなければならない旨の挨拶をされた。

続いて報告に入った。埼玉支部の大久保春美支部長兼社会貢献委員長は、埼玉県障害者スポーツ協会と協力して行っている「ふれあい登山」を中心に埼玉支部での取り組みについて語られた。首都圏会員の星野善久氏は、ご本人もメンバーの六つ星山の会（視覚障がい者支援登山を中心に活動している山岳会）の活動状況と、今年9月に行われた視覚障害者全国登山大会交流会を中心とした報告をされた。私（前田）から東海支部での三つの支援登山（知的発達障がい者支援登山、視覚障がい者支援登山、幼稚園児支援登山）および一つの支援事業である幼稚園児森林体験の取り組みについて報告した。



情報交換会の風景

第二部は、視覚障がい者支援登山を中心として構成。加藤守彦東海支部ボランティア委員より東海支部での視覚障がい者支援登山のきっかけと経緯が話された。自らが視覚障がい者(全盲)でありながら、東海支部の会員でもある山田弘東海支部ボランティア委員より体験を基にした視覚障がい者との山歩きの仕方について語られた。

最後に、東海支部での視覚障がい者支援登山のきっかけとなった、社会福祉法人名古屋ライトハウス理事、原田良實氏から、「視覚障がい者登山の意義」といタイトルで、感銘深い話が聞けた。

それぞれがプロジェクターを使用しての熱のこもった報告で、3時から6時までの3時間を予定していた交換会が報告で終始し、充分な質疑応答の時間がとれなかったのが反省と同時に悔やまれる。交換会の後は、場所を移動して、懇親を図りながら意見交換が続いた。

また、今回の交換会に先立ち、32支部の支部長、事務局長あてにアンケートを出した結果、24支部から回答があった。現在、視覚障がい者支援登山を行なっている支部や、行っていないものの関心の高い支部の存在も解り、そういう意味からも交換会を行って良かった。これをきっかけとして横のつながりを期待したい。

最後に、原田氏の言葉を借りて報告を終わりたい。「視覚障がい者と登山を共有する周囲のものにとっての意義は、視覚障がい登山者は、単なる援助、ボランティアの対象者ではない。障がい者支援登山は、自分の「障がい者観」が劇的に変わる瞬間の体験であり、視覚障がい登山者という新たな隣人との出会いであり、人としての幅を広げるものである。」

全国ボランティア登山(障がい者支援登山)情報交換会に関しては、今回、初めての試みであり、反省点も多く、また、全国的という大きな拡がりにはならなかったが、小さなきっかけとなれば、開催の意義はあったと思う。

親と子のふれあい登山教室　＝幼稚園児支援登山＝

ボランティア委員会委員長　**前田隆久**

今年の「親と子のふれあい登山教室」は、10月11日(土)18日(土)の2日間行われた。この登山教室は、日本山岳会東海支部ボランティア委員会と自由ヶ丘幼稚園が一緒に行っている行事で、2004年から毎年行われ途中2回雨で中止になったものの、今年で9回目の開催となった。

今年は晴天に恵まれ、参加人数は、11日が33組66名の親子と先生5名、東海支部から15名、18日が59組118名の親子と先生11名、東海支部から15名と合計230人が参加した。

目的の山は、第一回から定番の鈴鹿、尾高山で行っている。尾高山は、鈴鹿7マウンテンの釈迦ヶ岳から延びる尾根上のピークで、標高こそ529mだが、園児たちには結構登りがいのある山だ。このコースは、尾根を登って、谷を下るというコースで、尾根は、鈴鹿山脈中部特有の花崗岩のやせた尾根で、途中ロープのある場所や両手を使ってよじ登る場所もあり、下りの谷は、登山道というよりも谷そのもののような場所もあって、園児の登山行事としてふさわしいコースといえる。また、駐車場から登って駐車場に戻る周回コースで、途中にトイレのある

谷を下る参加者の様子

芝生の広場があり、毎年そこまで下りてきて、昼食をとり、園児たちは芝生の斜面で滑って楽しいひと時を過ごすのが恒例となっている。とはいっても、タイトルに登山教室とあるように、遠足、ハイキングではないので、基本的な山登りの仕方を実施で指導するように心がけている。ザックの背負い方、休憩の取り方、水分の取り方、歩き方等々。

この行事の目的は、「親子で一緒に山へ登るという体験を通して、感動を分かち合い、絆を深めると同時に都会では味わえない、自然体験をしていただく」ということにある。私たちの本音としては、これを機会に登山に興味を持っていただき山のファンが増えていけばと願っている。来年は、第10回の記念すべき大会だが、これからも登頂した時の園児たちの笑顔と、感謝の言葉がある限り続けていきたいと思っている。

新委員会の紹介

日本山岳会 110 周年記念出版

「インド・ヒマラヤ」編集・出版委員長　**沖　允人**

日本山岳会は、今年で110周年を迎える。数ある記念事業の一つとして、海外遠征についての記念出版を行うことになった。

東海支部では、設立当初からヒマラヤ研究を行ってきた伝統があり、特にインド・ヒマラヤに関しては登山および地域研究を続けている。その経緯から、本部の記念事業に併せて、沖を中心に、鈴木常夫評議員および現在継続して遠征を行っている星一男会員等を中心とした「インド・ヒマラヤ編集・出版委員会」を立ち上げた。この委員会は9月の常務委員会で正式に新規の委員会として全員一致で承認された。

その後は、毎月編集委員会を開催するとともに、その概要を本部に報告を行っている。12月19日には、本部の委員会より神長委員を名古屋に迎えて、編集出版の骨子の説明と質疑を行った。

詳細は次号に掲載することとして、出版に関する概要について記して置く。

本の名称：インド・ヒマラヤ

目的：インド・ヒマラヤ全域を総括して、一冊にまとめる。将来のインド・ヒマラヤ登山の道標となることを意図し、各山域の注目された日本人による登山・登攀記録、未踏峰・未踏の壁についても可能な限り、収録・解説することとする。いわば、インド・ヒマラヤの山の過去と未来に関する内容であり、日本山岳会で記念出版する意義があると考える。

出版予定日：本年11月　部数1000部（B5版、300ページ）

内容：目次は和文と英文併記
インド・ヒマラヤ概説・全体図/300座・概念図（B5・20）巻末論文、付表等

編集委員（予定）
尾上　昇(本部委員長、相談役)　Harish Kapadia(顧問)　沖　允人(編集長)
阪本公一(副編集長AACK/AAJ)
鈴木常夫(副編集長)　星　一男(副編集長)
を中心にインド・日本国内を代表する諸兄に執筆や依頼をしている。（総勢25名程度）
次号に編集の詳細を報告する。東海支部員および関係者のご協力を切にお願いしたい。

東海支部俳壇

西山秀夫

十月二十六日松濤明や深田久弥も越えた小川路峠を歩く

秋葉道（あきはみち）紅葉且つ散る峠かな

黄葉の落ち葉舞ひ散る峠かな

縁者から見放された木地師の墓。山から山へ流浪の職人たちには先祖の供養さえ不可能に近い

秋深し木地師の墓に寄る辺なし

綿虫が人恋しさにまつわりし

明治時代、余りの山深さに峠で辞表を書いて引き返したという逸話が残る。

名にし負ふ辞職峠や秋の風

十二月五日年次晩餐会への途次の山行

広大な枯野の果に雪の富士

十二月六日の年次晩餐会（東京）恒例の鏡開きに皇太子殿下も加わって

樽酒の鏡開きや年忘れ

第 18 回 森の勉強会　報告

自然保護委員　**大塚治子**

「第18回森の勉強会」が平成26年11月8～9日に、関西支部、京都滋賀支部、東海支部の自然保護委員会の共催、東海支部主幹で開催された。

1日目は座学（土岐市柿野温泉八勝園湯元館）、2日目は現地視察（東京大学赤津研究林、猿投の森）で、参加者は、関西支部（6）、京滋支部（3）、首都圏（1）、東海支部（16）、猿投の森づくりの会（3）、HAT-J東海（2）、森林インストラクター（3）、日本自然保護協会（1）の35名。座学の講師には東京大学生態水文学研究所の蔵治浩一郎所長と森林インストラクターの川合壽之氏を招いた。また赤津研究林の現地案内は、同研究林のサポーターズクラブ「シデコブシの会」の4名の方にお願いした。座学の後は、温泉に浸かり、懇親会、二次会で盛り上がった。そして翌日は雨となったが、赤津研究林、猿投の森を詳細な解説付きで案内してもらった。

ヘルメットを着用して研究林視察へ

8日　座学（報告と講義）

○報告「猿投の森の動物たち」南川陸夫氏

カモシカの生息確認をサブテーマとし、猿投の森の会と自然保護委員会の有志でここ数年取り組んできた動物調査の概要が報告された。確認されている動物は、出現頻度順に、イノシシ、タヌキ、カモシカ、アライグマ、ウサギ、ハクビシン等で10種類程度となる。

○講義1「猿投の森の土壌と植生」川合壽之氏

最初に、御嶽山の噴火後の地獄谷下流濁川の現状（10月）が報告された。続いて、講義は猿投の森の土壌の話に進んだ。

100年前の猿投の森は、過剰伐採により、林地崩壊しマサ土（サバ土）が露出していた。土壌分類によると、受蝕土と呼ばれる。現在は、ヤシャブシ類やマツ等のやせ地に強い木の植栽やその後のヒノキ等の植栽等により、森林が戻ってきており、崩壊も無くなった。この間に土はどの程度土壌に変化したのか。これを知る目的で、林内の8箇所について、「森林土壌調査方法」に準じて断面を採取し調べた。

○講義2「森と水の関係を解き明かす」

赤津研究林　蔵治浩一郎　所長

1．森と人とのかかわりの歴史

愛知、滋賀、岡山（日本三大禿山県）の禿山は何れも窯業に起因している。

瀬戸地域の禿山化には風化花崗岩地帯という悪条件も重なった。もともとは常緑広葉樹林であったが、窯跡出土「炭化材」の分析により、平安期には落葉広葉樹林、鎌倉期にはほぼ禿山（マツのみ）となっていたことがわかる。愛知県資料によれば、近年でも明治22年には瀬戸市の全域がほぼ禿山となっていた。

土砂崩れや水害の多発から、治山・砂防工事が進められた。しかし、大きな改善はみられず、1905年（明治38年）に愛知県知事が東京帝国大学に森林再生計画を依頼し、外国人教師アメリゴ・ホフマン氏がホフマン工事を導入・指導したのが修復への大きな契機となった。ホフマン工事以降、植生は次第に回復していった。その後（1922年）、瀬戸に「東京帝国大学愛知県演習林」が設置され、以来92年間、禿山と森林再生、水文、気象のデータ収集、スギ・ヒノキの育成等の調査研究を継続している。

２．森と水の関係

森と水の関係についてみると、森の保水作用には、蒸発作用と川へゆっくり流す作用がある。森は他の草地や禿山に比べて蒸発作用が大きい。その分、川の水量を減らす。雨が多い地域の森は水を多く消費している。例えば年降水量約1500㎜の地域の森林を伐採すると、川の年流出量は約400～500㎜増加する。

蒸発作用には遮断と蒸散の2つのメカニズムがある。雨滴が枝葉に捕捉され、地面に達することなく遮断される率はかなり高い。演習林で

実測された例では10～30%にも達し、その割合は立木密度が高いほど高い。

３．健康な森、不健康な森

不健康な森とは、人間に恵みをもたらす力が弱まった森、人間に災いをもたらす可能性がある森、具体的には、高密度で植林し、間伐を行わず放置した森、日光が遮断され、下草が育たない森である。

下草がないと雨粒による土壌の浸食が進む。林内の雨粒は林外よりも直径が4～5倍大きく、衝撃エネルギーはその16～25倍に達する。土壌侵食で根がむき出しになった暗い林が出現する。

林業の再生を低コスト化で実現しようという動きがあるが、皆伐跡地の再造林の不備や、作業道の増加による斜面崩壊の恐れの増大などにより、環境にその分負荷をかける結果になり兼ねない。人にとっての理想の森は、どの機能（木材生産、洪水緩和、水資源涵養）を重視するかで異なり、その維持・管理方法（道をつくるか、倒木を搬出するか、木を密にするか）も異なってくる。

講義後の質疑応答では、日本シカの食害、ブナの保水機能など話題となり、活発な議論があった。

9日「赤津研究林」と「猿投の森」の現地視察

9時に赤津宿泊施設に集合。雨具と貸し出されたヘルメットを着け、約2時間のコースを2班に分かれ視察した。

研究林の林相は約7割が天然生林(二次林)、約3割が人工林、標高は250～690mとのことであった。

宿泊施設に隣接する気象観測露場では、降水量、気温、湿度、風速などの計器類が設置され、常時観測が行われていた。

続いて白坂苗畑に向かった。林間の空き地で、スギ・ヒノキ等の苗を育成する場所とのことであったが、あちこちイノシシがほじくり返し、畑のようになっていた。そこからやや下った斜面に、「小長曽陶器窯跡」があった。建屋に覆われて史跡として保存されていた。室町時代に「古瀬戸」を生産した窯跡で、この山地にあるのは、低地で産出される粘土を運ぶより薪を運ぶほうが大変であったためとのことであった。

研究林内には幾つかの見学コースが設けられている。部分的に紅葉始めた雑木林内の道沿いには小さな巣箱が多数設置され、ヤマガラ、シジュウカラ等の繁殖生態調査等行われていた。続いて北谷と呼ばれるやや急峻な渓流沿いの小谷を登った。渓流の数箇所が堰き止められ、地表流、地下水量等の常時観測が行われており、隣接する南谷でも同様の観測が行われているとのことであった。

谷をのぼり、三国山や瀬戸市街が遠望できる尾根に達した。ここは「はげ山地帯」と呼ばれ、尾根の頂上部分に樹木がなく、幅5～10mの尾根沿いに白い花崗岩質の砂礫土が露出し、部分的に小さなマツが頑張って芽をだしていた。尾根を下り林間を抜け、小川沿いの林道に出た。

ここには東海豪雨（2日間で460mm）による崩壊地跡があった。さらに林道から斜面を登り、隣の間伐を遅らせたヒノキ人工林に入った。細いヒノキが真直ぐ密生し、ある意味で整然としている。しかしヒノキの枝葉が林冠を埋め、中は暗い。下草は無く、木の根が地表に露出している。藏治所長の講義にあった不健康な森だ。

「白坂量水堰」は宿泊施設の南の谷にある。水位観測施設が設けられていた南谷、北谷を含む約90haの流域（猿投山の北麓）をカバーしている。水をせき止める小さなダム（量水堰）の中央には、縦150cm幅20cmの穴から水が越流しており、その側板の目盛からその時の流量(20L～100L/秒)がわかる。越流部の下には18KLの升があり、これが満杯になる時間を計測し、水位から流量を求める係数を決定しているとのことであった。

白坂量水堰

研究林の視察を終え、車に分乗し、「猿投の森」に移った。林道奥の三叉広場に張られたターフの下で温かい味噌汁とコーヒーを飲み、弁当を食べた。その後2班に分かれ、解説員に案内されて、山桜コースなど紅葉が始まった散策路を約2時間歩いた。猿投の森づくりの会の活動状況や植物・植生、また人工林の間伐のあり方などについて説明を受け、午後3時に現地解散した。密度が高く、有意義な勉強会であった。

ゴザフェス(GOZAISHO FESTIVAL) 2014

東海学生山岳連盟　**梶浦昌巳**

今年も東海学生連盟主催による御在所フェスティバル2014(ゴザフェス)が9/25(土)・26(日)の両日に御在所山にて開催された。今年で第5回目となり若き岳人諸君の恒例の行事として定着したようだ。参加校は、名古屋大、南山大、愛知学院大、名古屋外語大、名古屋工業大、三重大、東京理科大の7校、参加人数は33名と成った。各自のレベルに応じてチームを編成し、前尾根、国見尾根、本谷と怪我や事故も無く御在所山を満喫した。

ここに参加した学生のGOZAFESレポートを紹介する。

『今年もゴザフェスの季節がやってきた！日本山岳会東海支部の学生連盟が主催して全国から山好きな学生が集まるのだ！
今回のゴザフェスでは東京理科大学から倉田さんが来てくれた。彼とは前尾根を登り御在所山の頂上を目指す際、一緒にザイルを組むことになった。ザイルを結ぶことでお互いの心を一つにする。東京と名古屋、住んでいる場所なんて関係ない。朝日が降り注ぐ綺麗な景色もそっちのけ、僕らは緊張する岩場を協力し合って登っていく。登っている最中は高さの恐怖感で景色を楽しむ余裕はあまりない。数時間後…「やったー！頂上が見えたぞ！」僕らの顔は登り終えた達成感と目の前に広がる伊勢湾の絶景によって笑顔に包まれた。』

ゴザフェス初日の様子

南山大学　アルパインクラブ
２年　坂部信一郎

メールリンクでの「談話室」開設　　加藤守彦（支部員）

今度、支部内でメールリンクでの「談話室」が、開設されることになりました。

趣旨は、山行計画を立てるとき、ガイドブックやインターネットの情報が中心となっていますが、「いま」「この時期」という点では不十分です。これを補完するため、東海支部の仲間で、メールリンクによる「談話室」を設け、直近の山の状況についての情報交換の場とすることにあります。

１．談話室での情報交換内容（例）

１）山の情報交換：登山口までのアプローチ、林道の通行の可否。駐車場やトイレの有無、場所等。／登山路：路が荒れている。登山路が判りにくい。藪こぎ多い。赤布必要など。／木や花の情報。（アカヤシオ、マンサク、カタクリ等の開花情報、紅葉情報）／雪情報、ヒル、アブ、ブヨ、蜂、マムシ等の情報。　２）個人山行募集の場　３）不要の山道具交換の場　４）その他、山に関する情報交換の場

２．対象者・メンバー

・東海支部員、支部友会員でメールアドレスをお持ちの方。入会、脱会は自由です。
・メンバーが多いほど、情報が豊かになりますので、趣旨に賛同された方は、個人的な人脈で仲間を増やすべく、呼びかけをお願いします。

３．運営

・メールリンクは、ヤフーの「フリーML」を使います。
・会費は無料です。但し、スポンサーからのコマーシャルが、送信されます。
・発信すると、会員全体に情報がメールされます。但し、発信者名は出ます。
・登録会員以外の人から受信・発信は、できません。但し、転送は可能です。
・担当は、加藤守彦です。加藤宛申し込んで下さい。
・加藤への入会通知を受けて、加藤が登録手続きをします。これにより、「談話室」の仲間入りとなります。

談話室のメールアドレス：　jac-tokai-danwasitu @freeml.com

・東海支部として同種のものが出来れば、そちらに合流します。
・入会申し込みは、mk-katos@ma.medias.ne.jp にお願いします。

第６回森の音楽祭 2014 を振り返って

森の音楽祭実行委員会　**毛利邦男**

去る10月25日（土）に第6回森の音楽祭2014を開催した。 尾張瀬戸駅から森の入口まではシャトルバスを利用して頂き、演奏会場まで森の中を約３ｋｍほど歩くと会場入口に到着、アルプホルンの演奏のお出迎えを受けながら受付を済ませたのち、特設の演奏会場に入って頂くこととした。

名古屋アルプホルンの会の皆さんによる演奏

東海支部の村中氏率いる名古屋アルプホルンの会の皆さんによる演奏を楽しんで頂いた後、小川務支部長の主催者からの挨拶、猿投の森づくりの会の活動に多額の助成金を出して頂いている（公社）緑化推進機構の梶谷専務理事、そして東海学園の西村先生の挨拶を頂いた。

最初に東海学園の交響楽団75余名の皆さんによるチャイコフスキー作曲交響曲第5番ホ短調作品64の演奏で音楽祭は始まった。全曲約50分間の演奏を楽しんだ後、参加者全員で雪山讃歌を合唱し音楽祭の第一部を終了した。

午後1時から第2部の10コースに分かれた森の観察会と森の散策がおこなわれ午後3時無事終了した。この日は最高の素晴らしい天気にも恵まれ、木漏れ日がさすなか、鳥のさえずり、小川のせせらぎを聞きながら、オーケストラの美しい音色に400人超の聴衆はうっとりと耳を傾けた。

今年から有料での開催としたが、DMによる広報活動を加えたこともあり、一般の参加希望者は400名を超えた。しかも森の観察会への参加希望者は想定していた人数を大幅に上回ったため、受け入れ態勢の見直しをすることとした。

説明員の数を増やし観察会の定員を増やす

自然観察会の様子

と同時に、別途森の散策コースを加え、観察会に参加できない方には森の散策を楽しんで頂くこととした。聴衆の方には静寂な森の中でのアルプホルンとオーケストラの演奏を存分に楽しんで頂けたと思う。音楽祭に参加して頂いた方には、素晴らしい音楽と自然との触れ合いを存分に楽しんで頂けたものと信じている。

音楽祭終了後、参加者から頂いたアンケートではほぼ全員の方が‘森の体験が出来て良かった’、‘この音楽祭を存分に楽しんだ’、‘来年の開催も期待していますよ’などの励ましの言葉を頂き、準備の苦労が報われたと喜んでいる。また音楽祭準備に当たり会場整備・準備に多大の労力を注いで頂いた猿投の森づくりの会の皆様及び東海支部の支援スタッフのご協力に、この場を借りて改めて御礼を申し上げる次第である。（表紙写真参照）

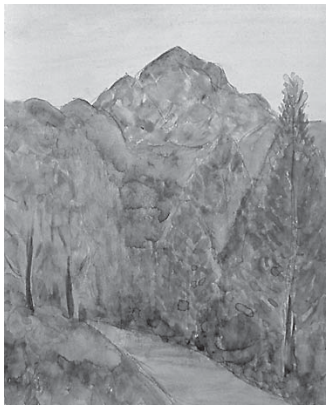
左から和田、緑推の梶谷専務理事、尾上、箕浦の各氏

同好会紹介コーナー

東海支部会員が有意義なクラブライフを楽しむための組織として同好会が発足しています。同好会とは、東海支部会員が同好の士と東海支部の事業目的に沿った多様な活動を通じて有意義なクラブライフを享受しようする集りで、総務委員長の所定の承認及び常務委員会への設立報告に基づいて登録された会をいいます。同好会は支部の会議室等の施設、設備、支部報及びホームページを利用することができます。東海支部会員なら入会自由であることが前提です。同好会規約及び設立の申込み方法は本年度の支部ガイドに記載してあります。同好会が設立された場合は支部報等で告知します。

スケッチクラブ　　村中　征也

活動報告と展覧会のご案内 !!



11月20日(木)、御在所山麓の大羽根園に、9名の参加を得てスケッチ行を行いました。いつも登ってしまって全体像を見ることのない御在所山と鎌ヶ岳を仰いで、その秋色の素晴らしさに認識を新たにした次第です。その後、500mの所にあるParamita美術館(イオンの岡田一族経営)の上村松園三代特別展を見学し、談話室で恒例の講評を行いました。

《今後のスケジュール》

１年間の活動成果の発表会として、ミニ展覧会を下記の通り開催しますので、友人・知人を誘ってのご来場を、お待ちしております。

日程　2月7日(土)～2月11日(水・祝)
時間　10:00～17:00　*初日のみ11:00に開館
場所　安藤七宝店ラウンジ
　名古屋市中区栄 3-27-17　松坂屋南館西
　地下鉄矢場町駅から5分・栄駅から10分
　TEL052-251-1371
出展　会員19名の作品

■会費ゼロで門戸開放、もっと会員を増やしたいので、気軽に声を掛けて下さい。
　事務局…村中征也・加藤和子・武内喜代子
　代　表…杉田博

古道塩の道同好会　　山中　光子

古道塩の道同好会は、やぶ漕ぎの治部坂峠を越え、落葉を踏みしめ地元の方にしかわからない古道の入口から浪合関所跡を尋ねた。過去のイベント開催で使用した破れかけた旗が寂しく風に舞っていた。以前は平谷村にあったものが、現地に移されたとのこと。そこから少しまわり道をし、織田信長が武田勝頼親子の首検分をした場所、浪合宿跡、御所桜へと。畑の中に推定250年のエゾ彼岸桜の木が堂々と立っていた。この近辺は尹良親王(ゆきよし)の御所があったと言われ、親王のゆかりの地となっている。浪合神社は尹良親王が祀ってあり宮内庁管轄の親王の墓所もある。

阿智村の浪合関所跡

古道塩の道同好会では、役行者を含め木地師の研究をしている。

平谷村の木地師墓石群

平谷村では木地師墓石群と紹介されているが、まだ他にも墓石や住居跡があるとのこと。阿智村にも木地師の墓がひっそりとあり、村史情報で地域詳細が不明のため次回地元の方に案内頂く。役場の方からも色々な史跡など活性化させるための知恵が欲しいとも言われている。

愛知県から始まった古道塩の道も長野県に入り、資料が増えすぎない内に今迄のまとめを作成し始めた。編集に時間がかかるが皆さんの知恵を絞り、古道塩の道周辺の村の歴史、文化、暮らし等報告できたらと思っている。

東海支部の蔵書からの一冊③

図書委員　園田さえ子

『日本山岳名著全集１』

「日本アルプスの登山と探検」ウェストン著／山崎安治・青木枝朗　訳

「アルピニストの手記」　小島烏水著

明治時代にタイムスリップ～

訳者、山崎氏によると「ウォルター・ウェストン師は日本の山登りの父である。日本における近代登山の種はウェストン師によってまかれた。英国教会の牧師として明治21年から明治27年の7年間滞日。日本アルプスの美しさに初めて接したのは明治24年。それから明治27年までの4年間の日本中部山岳地帯の山旅がこの本の主題となっている。この『日本アルプスの登山と探検』という一冊の書物がウェストン師と日本の若い登山者とを結びつけるきっかけとなり、…日本山岳会結成の糸口となった。」日本の若い登山者というのが小島烏水を中心とした人々である。日本のアルプス早期登山時代は明治においてで（欧州ではアルプス登山の黄金時代が終わり銀の時代に）、外国人の日本アルプス地方における探検でもあった。

小島烏水は明治27年岡野金次郎と共に近辺の山々を歩き回ると共に、志賀重昂の『日本風景論』を経典として熟読していたという。明治35年遂に槍ヶ岳の頂上に立ち、この紀行文『槍ヶ岳探検記』を通じて後の日本山岳会創立の仲間たちと知り合う。また同じ年、偶然『日本アルプスの登山と探検』を目にしてから、ウェストン師との交流（本文ウェストンをめぐりて）が始まり、明治38年ウェストン師に強く勧められて日本山岳会の結成に至る。『アルピニストの手記』を読むと、烏水の読書量と文筆量と交流の広さに驚かされる。ただただ圧倒されるのみである。

明治といえどもまだまだ江戸時代の暮らしであったと思われる奥深い山の暮らしに感動し紹介しているところが印象的だ。ウェストン師がシラミに悩まされつつ、「暮らしぶり、身なりはとても貧しいが礼儀にかなった挨拶をしてくれる。世間に広く行き渡っている儀礼は社会生活の歯車をなめらかに回転させてくれる」という文面を読み、ウェストン師の人となりに敬意を表し、また日本人として素晴らしき国に生まれたことにも感謝したい。加えて、ここに解説の一文を引用し思いを伝えたい。「･･･ウェストン師の文章は烏水翁もしばしばいっているように詩が欠けている。しかし、きわめて素朴にしかも克明に明治の中葉における日本の山間部の民俗、風習を描き出している。そしてとつとつとして物語る言葉の中に、限りない山への情熱がほとばしっている。･･･山登りにおける生命感の躍動をウェストン師の筆は見事にとらえているのである。日本の山岳図書の古典としてまっさきにあげなければならないのは、また当然である」

ここにあげた第１巻は「槍・穂高・上高地の仙境に近代登山の黎明の貴重な一刻を告げた二人の岳人の古典的な山岳書は、日本登山史の宝石のケルンといえる」と、紹介の言にあるように一度は手にすべき書だと思ったからである。今や情報がとびかい読書離れが叫ばれて久しいが、今回、支部蔵書の紹介にあたってやはり山岳の名著・名文と言われるものに触れておくことも、会員個々の山への糧の一助になりはしないだろうか。

この全集は12巻からなり37冊分を所収（監修；田部重治・尾崎喜八・深田久弥）。全巻においてその著者略歴と解説が付されており、まずはここを読む事によってそれぞれの本の一端を窺い知ることができる。因みに、この全集の初出は1965年・あかね書房版。その後、改装で版を重ね、さらに10年後、吉沢一郎・安川茂雄が監修に加わり四季書館編集、三笠書房版が新版として出ている。

なお、支部の禁貸書棚には12巻揃い（1965版）とこの所収本の多くが復刻本として並んでいるので手にされるのも良いのではないか。今、手にしているのは不揃いで貸し出し分類のものである。合わせて支部蔵書には無いがこの全集と前後して、世界の主だる名著群を網羅した『世界山岳名著全集12巻』が同じあかね書房から出版されている。

1965年発行　フールス判上製箱入

平均310頁　あかね書房

支部友コーナー

◆支部友委員会では平成27年2月～5月に次の山行を予定している。

平成 27 年

2月7日（土）浜松の尉ケ峰(433m)
☆　ﾘｰﾀﾞｰ：酒井　広

2月14日（土）鈴鹿の入道ケ岳(906m)
☆　ﾘｰﾀﾞｰ：伊藤康信

2 月 21 日（土）遠州の猿見石山(1,116m)
☆　ﾘｰﾀﾞｰ：尾上　昇

3月16日（月）関ヶ原の伊吹山(1,377m)
☆☆　ﾘｰﾀﾞｰ：伊藤康信

3月21日（土）豊橋の神石山(325m)
☆　ﾘｰﾀﾞｰ：酒井　広

3 月 29 日（日）鈴鹿の油日岳（693m）・三国岳（711m）
☆　ﾘｰﾀﾞｰ：尾上　昇

4月18日（土）川辺の納古山(633m)
☆　ﾘｰﾀﾞｰ：酒井　広

4 月 19 日(日)　東濃・中山道歩きと山菜採り
☆　ﾘｰﾀﾞｰ:松本陽子

4月20日（月）鈴鹿の御在所岳(1,212m)
☆☆　ﾘｰﾀﾞｰ: 伊藤康信

5月1日（金）若狭の三十三間山(842m)
☆　ﾘｰﾀﾞｰ：酒井　広

5 月 10 日(日)　鈴鹿の霊仙山（1,094m）
☆☆　ﾘｰﾀﾞｰ：金谷正起

5 月 17 日(日) 愛発山地の赤坂山(823m)
☆　ﾘｰﾀﾞｰ：榊　將美

5月25日（月）鈴鹿の鎌ケ岳（1,161m）
☆☆　ﾘｰﾀﾞｰ：伊藤康信

支部友会員数

平成26年11月現在／52名

会員資格満了のお知らせ

№51722～№51768の方は３月末をもって資格満了となる。

◎支部友山行への支部会員の参加については、平成 27 年 4 月の山行分から、参加して頂けるようにする。詳細は、次号支部報に掲載する。

◆支部友ミーティングを次のように開催する。

第10回『日本百名山を登る楽しみ方』
日時：平成27年2月10日(火)19:00～
講師：JAC 関西支部長　重廣恒夫氏

第11回『あなたにもできる山登りに於ける便利なパソコンの利用術』
日時：平成27年4月8日(水)19:00～
講師：鈴木慎吾氏（東海支部員）

◎　上記２つのミーティングは、オープン講演会・講座となっている。支部員の皆様も是非ご参加頂きたい。

支部友山行の申し込みルール

山行対象者：　支部友会員，支部友委員会ｽﾀｯﾌ

申込み方法

・締切日　山行日 20 日前まで。
・申込先　希望する山行のﾘｰﾀﾞｰに申し込む。
・詳細は支部友会員宛に同封されている「別紙支部友コーナー」をご覧頂きたい。

申込先

尾上 昇	
①〒467-0044	名古屋市瑞穂区柏木町 1-24
②FAX	052-832-3878
③ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ	onoe@onoe.co.jp
酒井 広	
①〒487-0006	春日井市石尾台 6-6-4
②電話/ FAX	0568-92-6137
伊藤 康信	
①〒454-0957	名古屋市中川区かの里 1-2302
②携帯電話	090-2577-8137
③ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ	kobitokaba@mediacat.ne.jp

個人山行もＪＡＣ東海登山届けを！

専用携帯電話

０８０－２６３２－３７７６

委員会報告

【総務委員会】

全国支部懇談会報告　10月18･19日埼玉支部秩父盆地で

平成26年の第30回支部懇談会は埼玉支部の主管により、10月18・19日に全国から200余名が集まり秩父市の「ナチュラルファームシティ農園ホテル」で行われた。埼玉支部は創立5周年を迎えたばかりの活気ある支部であり、32支部の中で唯一の女性支部長である大久保支部長の決断のもと、多くの支部員の協力を得て開催された。設立間もない支部であり、この懇談会を支部活性化と組織の強化に向けた貴重な経験とするとの共通の認識のもと関係者の意気込みが強く感じられた。遠隔地でもあり東海支部からは3名のみの参加であった。

行事は午後2時から大久保支部長、地元秩父市の久喜市長の歓迎の挨拶で始まり、来賓紹介の後、記念講演会が行われた。最初の講演者である埼玉県警山岳救助隊の飯田雅彦副隊長の講演が行われた。同山岳救助隊は30名の隊員で構成されているが、最近の登山ブームにかかわらず埼玉県警12000名の警察官からの入隊希望が無く、補充に苦慮している。その中で県内の山岳遭難は増加しており、死亡者も昨年は5人であったが、本年は既に8人となっている。その他遭難救助の模様が映像で紹介された。

最後に救助活動に従事して来て感じていることは①登山届の未提出が救助の妨げとなっている。②40人のパーティで気分の悪くなったメンバーが出たので救助要請が来たが、行ってみたら何の手当もせず、40人が傍観していた。セルフレスキューの知識が全くない。③他人任せの登山をしない。④山を知らない街ランナーがトレールランで遭難する。⑤遭難要請の電話をしておいて逃げたり、偽名の人がいるので救助隊としては大変迷惑している。⑥話しながら、地図を見ながらの「ながら登山」は事故の原因である。　などの指摘があった。後日の埼玉支部員の話では、同副隊長の講演は内容が豊富で分かり易く、関東各地での講演要請が多いとのことである。

二人目の講演者の秩父市ジオパーク推進協議会の吉田健一氏から秩父地方は日本地質学発祥の地であり、「秩父帯」や「三波川帯」などの地層名はその頃つけられたものであり、地質学発展の基礎となった奥秩父での研究などの紹介が行なわれた。

森会長他による鏡開き

以上で講演会を終り、入浴、休憩の後行われた懇親会は支部懇談会実行委員長を兼ねる埼玉支部野村副支部長からの歓迎の挨拶に始まった。続いて来賓を代表して森会長から支部懇談会を開催されたことへの謝辞と最近の山岳会を取り巻く情勢について以下の2点の報告があった。1点目は日本山岳会は来年110周年を迎えるが埼玉支部がその先頭を切ってヒマラヤ・チュルー最東峰登頂の計画を実行した。登頂はならなかったが、新しい支部で成果を挙げられたことに敬意を表したい。2点目は既に新聞等で報告されているが、学生部の女子登山隊4名がムスタン山群のマンセイル峰に初登頂の成果を挙げた。来年は男子学生隊の計画があり、隊員と目標が決まって来た。そのためにも資金が必要なので寄付についてもご協力をお願いしたい。さらに110周年事業として計画していた「日本300名山登山ガイド」全3巻が発刊された。まとめ買いのメリットもあるのでぜひ協力をお願いしたいとの挨拶の後、鏡割りと乾杯となり、懇親会が始まった。

翌日の記念山行は素晴らしい眺望に恵まれ3コースに分かれて行われた。そのうちの琴平丘陵コースは羊山公園や武甲山登山口を周遊する秩父盆地の眺望が優れたコースであまり訪れる機会の無い秩父盆地の景観を満喫することができた。来年は4月11日、12日に四国支部主管で小島烏水祭と合わせて行なわれるとのことである。　　佐野忠則　記

会　務　報　告

【2014 年 9 月常務委員会】

日時：9 月 24 日（水）19 時 00 分～20 時 45 分

1．支部長挨拶

去る 9 月 20 日・21 日の 2 日間にわたって開かれた支部合同会議に出席してきた旨報告。

本部が当会議に用意した資料の中には支部にとっても非常に重要な内容も含まれているので、データー化された資料を、常務委員会のメンバーには別途メールで送るので見て欲しい旨依頼。

森会長からは挨拶の中で‘会員の増強’‘支部の活性化’ならびに‘若手育成’を重要課題としてこれからも取り組んでいきたいので皆様のご協力をおねがいしたい旨の話があった。

２．委員会報告

①会計（市川）：本部より支部交付金 729,500 円＋新入会員獲得報奨金 168,000 円、合計 960,500 円入金となった旨報告。これは 32 支部の中で一番多い金額。

②支部友委員会（酒井）：配布された 9 月度議事録に基づき、8 月ならびに 9 月の山行結果並びに山行予定、8 月に開催した「セルフレスキューそのⅡ・知っておきたい救急の基礎知識」と題した支部友-ミーティング、10 月開催予定の「朝明茶屋」における支部友ミーティングの計画などにつき報告。会員数は 9 月現在 48 名である旨報告。

③山行委員会（石田）：7 月から 9 月にかけて計画した山行の内 7 山が雨天の為中止となった旨報告、後継者育成のことに関しては、2 名 50 歳代の新しいリーダーが 10 月から加わる見通しとなった旨報告。

④亀の会（加藤）：7 月 26 日～29 日に行った「富士山」山行は参加者 11 名全員登頂した旨報告。9 月の山行は雨のため中止、10 月は自主山行で会津駒ヶ岳、定例山行で「赤沢山」を予定している旨報告。

⑤猿投の森づくりの会（和田）：配布された定例報告をもとに活動報告。8 月 23・24 日に予定していた「山桜フィールドを楽しむ会」は雨天の為中止とした。しかし 9 月 27・28 日 NICE が同じ場所でキャンプの予定。

⑥東海ユース（山田）：配布された資料を基に、会員動向、山行報告、山行計画などにつき報告。会員数は 23 名。　岐阜県の条例により 12 月からは登山届の提出が義務付けられるので、個人山行についも山行計画書提出を徹底するよう指導。（無届登山は 5 万円の罰金の対象となる）関係資料については総務委員会で調査することとした。

⑦支部報編集委員会（星）：No.139 支部報は 9 月 26 日発送予定である旨報告。今回は広告ページもカラー化したとのこと。

⑧「インドヒマラヤ」編集・出版委員会設立の提案（星）－本部 110 周年記念事業の出版事業の一つとして、東海支部への「インド・ヒマラヤ 12 次にわたる遠征のまとめ」の出版依頼を受けて、遠征のまとめだけではなく「インド・ヒマラヤ」全域をカバーした出版物としたい。ついては、企画～出版までを運営する組織を支部内に設置したいので常務委員会の承認をお願いしたい。費用は本部の 110 周年記念事業費から支出する。－常務委員会はこれを承認。

⑨青年部（梶浦）：8 月 9 日・10 日に「日向小屋」にて御在所ミーティングを開催、本部青年部、東海学生連盟、Youth など 30 名が参加、滝根氏と野呂氏を講師として招き講習会を開催した旨報告。　8 月 6 日～12 日開催した第 8 回日中韓学生交流登山には日本から 14 名参加（報告書は　名工大の小澤祐介担当―日本山岳会ホームページ参照。）また 9 月 19 日～23 日に剣沢で開催された本部主催の訓練には東海支部から高橋副支部長をはじめ 9 名が参加した旨報告。

⑩登山教室委員会（鈴木）：配布された資料に基づき、7・8・9 月の山行報告、各教室の動向につき報告。10 月から指導員を山ガール講座を除き 3 名から 4 名に増員する旨報告。

⑪自然保護委員会：南川委員長欠席の為資料のみ配布。11 月 8 日・9 日開催予定の第 18 回森の勉強会への参加申込が少ないので、ご都合のつく方は是非参加して欲しい旨伝言有。

⑫ボランティア委員会（前田）：配布された資料を基に 10 月に予定している‘親と子のふれあい登山教室’ならびに 11 月に開催を予定している‘全国ボランティア登山情報交換会’の参加状況・準備状況・開催内容について報告。

⑬写真展委員会（井上）：配布された資料を基に、第 14 回東海岳人写真展収支報告と同時に来場者の数字・住所・来場回数などのデーターにつき報告。

⑭森の音楽祭（毛利）：10 月 25 日開催に向け、

9 月 16 日に会場・林道・森の観察路の整備作業をおこなったこと、9 月 27 日にも同様作業を予定している旨報告。 広報活動については、コンサートホールでのチラシ配布(2 回で 2600 枚配布予定)、瀬戸 FM 放送での音楽祭案内、中日ホームニュースでの案内など広報活動を継続中であると同時に、No.139 支部報発送時にチラシ同封を予定している旨報告。
参加申込については、順調に受け付けており、特に観察会への参加者申込は既に定員をオーバーしているので、観察会説明員を増員し定員以上の人数を受け入れ出来るよう準備中である旨報告。
⑮本部から支部主催の山行の登山計画書の提出依頼について（小川）：本部からの依頼文書を配布して依頼内容を説明と同時に、東海支部としてどう対処するか議論。 議論の結果、本部からの依頼は支部、特に東海支部のように各種・沢山の山行を催行している支部には多大の負担を強いると同時に支部の方では、それぞれの山行実施部署にて既にしっかり管理しているので、対応しかねる旨本部に連絡することとする。
⑯「山岳講演会」（毛利）：11 月 14 日開催予定の岐阜支部主催「山岳講演会」の案内。
⑰子どもゆめ基金助成活動募集説明会（佐野）：10 月 9 日に名古屋市中村区の桑山ビル 8 階会議室で子どもゆめ基金助成活動募集説明会が行われるので、興味のある方は参加して欲しい旨案内。

出席者：尾上、箕浦、野呂、中世古、小川、柴田、山田、高橋、佐野、和田、市川、石田、酒井、梶浦、鈴木、加藤、星、前田、井上、毛利
欠席：南川

【2014 年 10 月常務委員会】
日時：10 月 22 日(水) 19 時 00 分～20 時 45 分
1. 支部長挨拶
東海支部会員で長年足利工業大学教授を務められ、今年 8 月に名古屋に帰ってきた沖允人会員が、今回日本山岳会 110 周年記念出版事業の一つとして東海支部が手掛けることとなった「インドヒマラヤ」の出版にご尽力頂くことになった旨紹介。
2. 尾上 110 周年記念事業委員長より説明：沖允人氏並びに 110 周年記念出版事業として位置づけられた「インド・ヒマラヤ」につき以下の紹介があった。
沖允人氏は栃木県の足利工業大学を退官し、名古屋へ移住することになったのを機会に、もともと本部の 110 周年記念出版事業の一つとして東海支部が 12 次に亘って行ったインド・ヒマラヤ遠征の報告をまとめた本の出版を企画していたものを、‘インド・ヒマラヤの集大成’としたものに拡大しようという事になり、沖允人会員に当出版事業の指揮を取って頂くことになった。このことについては本部の承認もとれたので「インド・ヒマラヤ全般」を扱う 300 ページ程度の本にすることとした。
沖允人会員から本の中身について、配布された原稿見本を基に下記報告があった：－
本の内容：東海支部の 12 次に亘るインド・ヒマラヤ遠征の記録をベースにインド・ヒマラヤ全般を扱う本とする。100 座程度の写真・地図(20 ページほど)・山の説明を載せる予定。
30 人程度の方に編集に参加して頂いてスタートし、来年 11 月頃に完成する予定にしている。記述は日本語・英語の 2 か国語とする。
110 周年記念出版事業として他に中村保氏による東チベットの登山地図集も予定されているのでそれに負けないような内容のものにしたい旨抱負が述べられた。
3. 委員会報告
①会計（市川）：会費の振込状況は順調である旨報告。
②岳連（市川）：第 18 回遭難を考える会が来る 11 月 28 日愛知県スポーツ会館にて「未知への挑戦」と題し望月将悟講演会が行われるので興味にある方は参加して欲しい旨案内。 この案内は東海支部ホームページにも UP した旨報告。
③支部友委員会（酒井）：配布された 10 月度議事録に基づき、 9 月ならびに 10 月の山行結果報告。10 月 14，15 日開催した朝明茶屋での支部友ミーティングでは、予定されていた分散登山を台風接近の為中止とした。4 月開催予定の支部友ミーティングは鈴木慎吾さんに来て頂き「あなたにもできる山登りにおける便利なパソコン利用術」と題して講演を予定している。支部員も希望者は参加出来る旨案内有り。
又支部友山行に支部員にも門戸を開く方向で検討中であり、来年度から支部員も参加できるようにしたい旨尾上委員長より報告あり。又新入会員オリエンテーションを 11 月 12 日ルームで開催と同時に 12 月 3 日新人山行を予定している旨報告。会員数は 10 月現在 51 名であると

のこと。
④山行委員会（石田）：10 月予定した 6 山のうち 4 山は中止となったが 10 月 26 日の能郷白山は予定通り催行できそうである旨報告。後継指導者育成のことに関しては、取り敢えずオブザーバーとして４名に入って頂くことが出来た旨報告あり。
⑤亀の会（加藤）：9 月と 10 月の定例山行は雨で中止としたが、自主山行の「会津駒ヶ岳」は予定通り催行した旨報告。
⑥猿投の森づくりの会（和田）：配布された定例報告をもとに活動報告。10 月 14 日の作業日に 2 名ハチに刺される事故があった為、音楽祭開催に備え蜂の巣の駆除と救急処置対策を講じた旨報告。また、10 周年行事の一環として音楽祭の際、写真を中心としたパネル展示を演奏会場周辺の道路に設置することにした旨報告。
⑦東海 YOUTH(山田)：配布された 10 月活動報告書をもとに会員動向、山行報告並びに山行計画の説明あり。
⑧支部報編集委員会（星）：2015 年 1 月発行予定の No.140 支部報の原稿依頼者及び内容を配布された資料に基づき説明。原稿締切は 11 月 20 日としたので原稿依頼を受けた方はそれまでに原稿を用意願いたい旨依頼。
⑨青年部（梶浦）：9 月 19 日～23 日剣岳にて開かれた全国安全登山普及講習会に参加した。また 9 月 28・29 日にはゴザフェスを開催した旨報告。10 月は 6 件個人山行を実施、12 月には雪上訓練を予定している旨報告。
⑩登山教室委員会（鈴木）：配布された資料に基づき、９月・10 月の山行報告、各教室の動向につき報告。テキストを 300 冊増刷を予定しており、40 万円ほど費用が発生する旨報告。
⑪自然保護委員会(南川)：配布された 10 月度議事録を基に 11 月 8 日・9 日開催予定の第 18 回森の勉強会の進捗状況説明。11 月 22 日広島で開催予定の全国自然保護委員会には東海支部から 3 名参加予定である旨報告。
⑫海外登山委員会（高橋）：
　1) 2 月・3 月にインド・ヒマラヤへ未踏峰登頂をめざし学生たちを派遣することを計画。
　2)酒井会員がマッキンレー登山を計画しているので他の参加者を募っていきたい旨報告 Variation ルートと Normal ルートの２隊に分けて派遣するのも選択肢か？現在山田利行会員がカナダにいる間に、青年部としてカナダへのミニ遠征も検討中である旨報告。
⑬ボランティア委員会（前田）：10 月 11 日と 18 日の 2 日に亘って開催した「親と子のふれあい登山」について配布された資料を基に結果報告。11 月 8 日・9 日に開催する全国ボランティア登山情報交換会並びに視覚障害者支援登山の参加・準備状況について配布された資料に基づき報告。
⑭遭難対策委員会(野呂)：10 名以上の個人山行についてはメンバー表の Fax による提出ならびに下山報告もお願いしたい旨要請。 当要請に対しては山行委員会を中心に対応を検討することとなった。
⑮森の音楽祭（毛利）：一般参加申込が約 450 人、観察会参加申込は 330 人に達したので、観察会参加受け入れ可能な 220 名以外については希望者に散策コースを用意した事。蜂の救急応急対策として看護師を一人配置することとした旨報告。又、当日の天気はよさそうなので計画通り猿投の森での開催が出来そうであることと、緑化推進機構の梶谷専務理事を来賓に迎え開催することとなった旨報告。
⑯総務委員会(佐野)：
　1)御在所山の家の件－検討グループで検討の結果、維持費並びにいずれ必要になる撤去の費用のリスクが高いため、譲り受けることを辞退することとしたむね報告。但し東海支部として山の家をもつこと自体は意味があるので、もっと条件のいい場所例えば朝明等代替地が無いかを引き続き探すこととすることとした旨報告。
　2)日本郵政の切手代金の一部が寄付となっており、その原資が 6 億円あるがその使途がなかなかないとの現状のため、助成金の認可が下りやすいので、助成金申請を検討しては如何か？との助言。
　3)支部ルーム利用要領案を配布したので次回常務委員会までに内容の是非を検討しておいて欲しい旨要請。

出席者：　尾上、野呂、中世古、小川、柴田、山田、高橋、佐野、和田、市川、石田、酒井、梶浦、鈴木、加藤、星、南川、前田、毛利
欠席　：　井上、箕浦

【2014 年 11 月常務委員会】
日時：11月26日（水）19時00分～20時50分

1．支部長挨拶
①22日・23日広島市で開催された全国自然保護委員会・アジア山岳連盟創立20周年記念式典に出席した旨報告。これには日本山岳協会、日本勤労者山岳連盟、HAT－J、日本山岳ガイド協会も参加したとのこと。その他、個別に広島支部兼森氏と支部運営に関する実態、ノウハウに関して意見交換をしてきたとのこと。その中で、「山の弁当」なる駅弁の開発を手掛け年間20万～40万円の収益を上げる事業も行っている情報もあったとのこと。
②また、広島支部では、若手支部員確保の為、39歳以下の入会希望者には日本山岳会入会金の補助を行っているとのこと。但し、広島支部では登山教室の中級コースを卒業しないと入会の推薦は行わない規定となっており、補助を受けるための資格制限を設けているとのこと。東海支部でもこうした取り組に前向きに対処したい旨の発言をうけ、東海支部も今後具体的方策につき煮詰めていくこととなった。
③本部から各支部に対する登山計画書提出の要請－東海支部としては、支部主催の山行は多岐に亘っており、しかも山行計画から遭難対策まで支部で完結する仕組みが出来ているので、本部からの要請には対応しかねる旨支部長会議で返答するよう支部長に依頼することとなった。
２．委員会報告
①会計（市川）：会費の振込状況は例年より順調である旨報告。
②支部友委員会（酒井）：配布された11月度議事録に基づき、10月ならびに11月の山行結果と予定につき報告。登山計画書－支部友山行の登山計画書は支部友委員会で把握しているので支部長への提出は不要であること常務委員会で確認。会員数は11月現在52名であるとのこと。
③山行委員会（石田）：配布された11月期議事録をもとに月例山行の進捗状況と予定、新山行リーダー、即戦力リーダーの確保につき報告。支部山行の進め方と活性化についてはレベルアップ山行を復活させること、HPの更新を頻繁に行いHPの活用を広めることを計画している。野呂遭難対策委員長より、「クライミングリーダー」の養成をしてほしい旨要請あり。
④亀の会（加藤）：配布された運営委員会議事録をもとに実施山行の反省・今後に向けての課題、12月～2月の月例山行につき報告。メールリンクでの「山の談話室」開設の提案－配布された資料に基づき趣旨、内容につき、亀の会での開設スタートする提案－常務委員会承認。
⑤猿投の森づくりの会（和田）：配布された定例報告をもとに活動報告。10月25日の森の音楽祭から始まり、幼稚園児・父兄による森の探検隊の実施から11月22日の法人デーの開催に至るまで盛り沢山の活動であった旨報告。
⑥東海YOUTH（山田）：配布された11月活動報告書をもとに会員動向、山行報告並びに山行計画の説明あり。11月22～24日を予定していた個人山行に以下の問題があった－山が北ア唐松岳から小秀山に変更するも登山計画書未提出、しかも下山中スリップ事故による骨折事故があった。登山計画書提出を徹底するよう指導していきたい旨報告。
⑦支部報編集委員会（星）：配布された資料をもとにNo.140支部報の原稿集まり具合を報告と同時に原稿未提出の方は11月29日までに提出るよう依頼。
⑧青年部（梶浦）：配布された議事録を基に山行報告および山行計画の説明。12月13～14日に学生対象の雪上訓練を奥美濃‘毘沙門岳’で行う予定である旨報告。この1年間で青年部への体験入会者は20人を数えたが、支部員として残るのは6人程を見込んでいる旨報告。又、計画していた学生のヒマラヤ遠征は取り止めとなった旨報告。
⑨登山教室委員会（山田）：配布された資料に基づき、山行報告、山行計画、各教室の動向につき報告。ワークシステムからバス代値上げの要請が来ているが、これは国交省の指導に基づくものであり値上げは避けられない見通し。東海支部が運営管理している中日及び朝日の登山教室の現地山行バス代の見直しが避けられない状況となった旨報告。
⑩自然保護委員会（南川）：配布された11月度議事録を基に第18回森の勉強会の報告と反省があった。また11月22日から24日まで広島市にて開催された全国自然保護委員会、アジア山岳連盟創立20周年記念式典には日本山岳5団体の他にアジア山岳連盟が参加し、日本山岳会からは森会長をはじめ16支部82名が参加したとのこと。23日の国際シンポジウム「登山と自然保護」には17か国450名の参加があったとのこと。

⑪ボランティア委員会（前田）：配布された報告書を基に11月8日と9日の2日間に亘って開催された全国ボランティア登山情報交換会の報告があった。自然保護委員会の森の勉強会と日程が重複したこともあり東海支部員の参加が少なかったのが残念とのコメントー来年度同様の交換会開催する場合は他の行事と重ならないよう配慮が必要とのコメントが複数の委員から出された。
⑫インドヒマラヤ出版事業について（星）：本部110周年記念委員会に出席し、本の構成・内容につき原稿見本を紹介し、大筋承認を得た旨報告。予定出版部数は、当初300部程度と想定していたが1000部にするよう本部からの要請となった為1000部印刷をベースにした見積もりを1月の委員会にて報告することとなったとのこと。今後の計画としては、1月中に執筆依頼を完了させ11月原稿締切で進めていくとのこと。
⑬森の音楽祭（毛利）：配布された資料をもとに参加者の内容、アンケート調査の結果および会計報告。来年は送迎バス代の大幅値上げが避けられない情勢であることから、来年も音楽祭開催する場合は、財源等の見直しが必要である旨報告。
⑭総務委員会(佐野)：
1)新年会－1月17日、谷口けい氏を講師に招き開催する旨報告。
2)支部ルーム利用要領－先月配布した利用要領案に対し特に意見もないので、原案のとおり運用していく旨報告。
3)本部年次晩餐会－東海支部から15名参加することになった旨報告。

出席者：　野呂、中世古、箕浦、小川、柴田、山田、高橋、佐野、和田、市川、石田、酒井、梶浦、加藤、星、南川、前田、井上、毛利
欠席　：　尾上、鈴木、

総務委員会　毛利邦男　記

ルー ム 日 誌

━・━ 9　月 ━・━・━・━・━・━・━

１日（月）支部友委員会
２日（火）県岳連
３日（水）青年部／ＴＮＣＣ
４日（木）写真展委員会
５日（金）古道塩の道
１１日（木）自然保護委員会
１６日（火）ボランティア委員会／青年部／支部報編集会議
１７日（水）山行委員会／総務委員会
１８日（木）東海学生連盟／山行打ち合わせ
１９日（金）森の音楽祭／支部報編集会議
２４日（水）常務委員会
２５日（木）登山教室
２６日（金）支部報発送作業
２９日（月）図書委員会
３０日（火）インドヒマラヤ打ち合わせ

━・━ 10　月 ━・━・━・━・━・━・━

１日（水）青年部／ＴＮＣＣ
２日（木）写真展委員会
３日（金）古道塩の道
６日（月）支部友委員会
７日（火）県岳連
８日（水）森の音楽祭
９日（木）自然保護委員会
１４日（火）登山教室委員会／支部報編集会議
１５日（水）山行委員会
１６日（木）東海学生連盟／総務委員会
２０日（月）図書委員会
２１日（火）ボランティア委員会
２２日（水）常務委員会
２３日（木）亀の会運営会議
２８日（火）猿投の森運営委員会

━・━ 11　月 ━・━・━・━・━・━・━

４日（火）県岳連／ボランティア委員会
５日（水）青年部／ＴＮＣＣ
６日（木）東海学生連盟
７日（月）支部友委員会／古道塩の道
８日（土）ボランティア委員会
１０日（月）登山教室委員会
１２日（水）支部友新入会員オリエンテーション
１３日（木）自然保護委員会
１７日（月）図書委員会
１８日（火）ボランティア委員会
１９日（水）山行委員会／総務委員会
２０日（木）東海学生連盟
２５日（火）猿投の森運営委員会
２６日（水）常務委員会
２８日（金）東海学生連名

会員異動

入会：なし
退会：菊田　貞明（9599）　小野木　巧（12847）
佐光　大和（15001）　大野　七範（15704）

INFORMATION

【総務委員会からのお知らせ】

△新年懇親会のご案内△

日　時　平成 27 年 1 月17 日(土)　受付 16 時～
講演及び新年懇親会17 時00分～20時(予定)
場　所　高砂殿(The Grand Tiara)4階
名古屋市中区富士見町10－27
東海支部ルーム南隣
電話　052－323－1122
内　容
第1部　挨拶と講演
4階「鳳凰」 17 時00分～18 時 30 分
・支部長新年挨拶
・講演　女性登山家　谷口けい　さん
世界的女性登山家の谷口けい さんをお招きして、演題は「世界の山からニッポンの山を見る」ですが、女子学生のムスタン登山隊の件、及びこれから海外登山を目指す若手への期待などもお話していただく予定です。
第2部　懇親会」　18 時 45 分～19 時 15 分頃
・懇親会費　6,000 円(予定)
・出欠の有無を12月にお送りしたハガキでご連絡ください。(欠席の場合も)

総務委員長　佐野忠則

【写真展実行委員会からのお知らせ】

＜写真展実行委員会主催の山行ご案内＞

登攀・歩行を少なくして写真撮影や自然観察の出来る自由時間を多くした、山の景色や花などのきれいな場所への山行を計画しています。立派な機器は不要です。コンパクトデジカメや三脚無しでも OK ですし、撮影はせずにきれいな景色を楽しみたいだけの方でも歓迎です。ぜひご参加ください。

---

①　　西穂独標
・月日：2 月 23 日、24 日　1 泊
・交通手段：自動車・ロープウエイ
・宿泊：西穂山荘
・撮影対象：雪の穂高連峰
・雪山装備（ピッケル、アイゼン）

②　　北八ヶ岳、縞枯山
・月日：3 月 16 日、17 日　1 泊
・交通手段：公共交通機関
・宿泊：縞枯山荘
・撮影対象：雪の坪庭、縞枯山など
・雪山装備（ピッケル、アイゼン）

③　　上高地
・月日：4 月下旬　1 泊
・交通手段：公共交通機関
・宿泊：上高地
・撮影対象：残雪の穂高連峰

＊①、②は雪の中を歩きますが、雪山としては危険のないコースです。
＊月日や行程などは、天候および参加希望者との相談で変更となる場合があります。
＊交通手段での自動車は、人数により自家用車かレンタカーのどちらかになります。
＊参加希望の方は、井上（090-6590-6669、hinoue@sb.starcat.ne.jp）または、写真展実行委員までご連絡ください。

写真展実行委員会　井上　寛

【徳本峠越えとウエストン祭2015のお知らせ】

「日本アルプス」の名を広めた、W・ウェストンや、日本山岳会を結成した小島烏水、志賀重昂などの登山家が歩いた古の道、徳本峠越えを楽しみましょう。
日　時　　平成27年6月5日(金)～6月 7日(日)
集合場所　　JR春日井駅AM8:00
行　程 6/5木祖村.水木沢天然林トレッキング（3時間）　6/6　徳本峠越え（9時間）
6/7　ウエストン祭＆信濃支部主催の午餐会
＊お勤めの方は、5日(金)の最終電車(名古屋18:40、19:40)で新島々駅前の石川旅館へ入る事も可能です
宿　泊 6/5 石川旅館(新島々) 6/6 JAC山岳研究所(上高地)
参加費　　30,000円
定　員　　10名
問合せ・申込み先　　松本　陽子
〒487-0013　春日井市高蔵寺町3-4-8
メールyo-kom@nifty.com
先着順、早めの申込みをお願いします。

編集後記

明けましておめでとうございます。今年は日本山岳会創立 110 周年にあたります。すでに始まっている海外登山基金からの助成をはじめ、新たに記念行事が企画されているようです。支部の活性化にも繋がる取り組みに期待したいところです。　　星　一男

海外トレッキングのパイオニア！

世界の山旅を手がけて45年

アルパインツアーサービス株式会社

“山仲間でオリジナルツアーを企画しませんか？”
説明会にお伺いします。お気軽にご相談下さい

名古屋 〒450-0002 名古屋市中村区名駅3-23-2（第3千福ビル3階） 052-581-3211

アルパインツアー 検索 www.alpine-tour.com

ATLAS TREK

ハイキングから本格的な高峰登山までお気軽にお問い合わせ下さい。
観光庁長官登録旅行業第 1167 号 /（社）日本旅行業協会正会員

株式会社アトラストレック

名古屋サービスデスク TEL：052-788-2422
（東京本社転送電話）

【東京本社】〒180-0008 東京都新宿区三栄町 25 番地　三栄ハウス 202
TEL：03-3341-0030 FAX：03-3341-9200 E-Mail：info@atlastrek.co.jp
ホームページ　http://www.atlastrek.co.jp/

SINCE 1975
mont·bell

ウエア・ギアに
遊び心も揃えて
お待ちしています！

アウトドア用品は、
機能的なアイテムが豊富に揃う
「モンベルストア」へ。

名古屋店 Outlet	愛知県名古屋市中区栄3-18-1 ナディアパークロフト 6階
長久手店	愛知県長久手市片平1-901
名古屋みなと店 Outlet	愛知県名古屋市港区品川町2-1-6 イオンモール名古屋みなと 3階
各務原店	岐阜県各務原市那加萱場町3-8 イオンモール各務原 2階
長島店 Outlet	三重県桑名市長島町浦安368 三井アウトレットパークジャズドリーム長島 2階
鈴鹿店	三重県鈴鹿市庄野羽山4-1-2 イオンモール鈴鹿 1階
新静岡店	静岡県静岡市葵区鷹匠1丁目1-1 新静岡セノバ 4階

Outlet アイコンのある店舗では、ファクトリーアウトレット商品も取り扱っています。

モンベル・カスタマー・サービス
0088-22-0031/TEL.06-6536-5740　www.montbell.jp
※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

企 画・デザイン・印 刷

株式会社 ASAI 隆文社

株式会社　浅 井 隆 文 社

〒453-0801 名古屋市中村区太閤四丁目8番3号
TEL (052) 451-6656　FAX (052) 451-6657
E-mail : ta@asai-rbs.co.jp

♣♣♣♣♣♣♣ OMC ♣♣♣♣♣♣♣

住いのコンサルタント

㈲ 富 士 見 企 画

〒460－0014
名古屋市中区富士見町８番８号

♣♣♣♣♣♣♣♣♣♣♣♣♣♣♣♣♣♣♣♣♣♣♣

公官庁の許認可申請・権利義務・事実証明の書類作成

西山行政書士事務所

〒460-0002
名古屋市中区丸の内3丁目21-21丸の内東桜ビル1004号
TEL：052-961-6506
FAX：052-961-6507
URL：http://www.nygs-office.com/
facebook：http://www.facebook.com/nygs.office

㈱ワークシステムサービス

一般社団法人　日本自動車運行管理協会
一般社団法人　中部地区自動車管理業協会

・一般貸切旅客事業　・車両運行管理事業
・愛知県知事登録旅行業　・労働者派遣業
・ビル清掃管理事業　・介護支援事業

〒465-0021　名古屋市名東区猪子石３丁目113番地
TEL 052 (779) 8777㈹　FAX 052 (779) 0031
http://www.work-system.co.jp/